

いま、 アサヒメロン 作ってます。

アサヒメロンは今、生産の真っ只中。

いまこうして、アサヒメロンが生産され、安平町を象徴する文化のひとつになっていくのも、今を築き上げる人たちの果てしない努力と奮闘があったからというのはいまでもないだろう。

限られた紙面で全ては伝えられないが、少しでも知り、この町にアサヒメロンがあることを誇りに思っていただけたら…。

アサヒメロンという 文化の継承者たち

1964年。追分旭地区の3戸の農家からアサヒメロン作りが始まった。1970年には21戸まで広がりを見せ、追分アサヒメロン組合を設立することに。

アサヒメロンは「品質が良い」と市場などからの評価が高い。それには理由がある。見た目の美しさはもちろん糖度にもこだわる。14度という糖度を超えなければ、どんなに美しい見た目でも出荷することはない。「高品質のアサヒメロンのみを提供していく」という組合としてのプライドがあるからだ。そんなプライドを裏付けるエピソードがある。かつて取材した際に「メロンは決して安いものでもないし、食べなければならぬものでもない。だけど1玉を買ってくれる人がいる。生産者からすればたくさんうちの1玉かもしれないけれど、買ってくれた人にとってはかけがえのない1玉。その1玉で嫌な思いをして欲しくない」という話を聞いたことがある。

生産者は増減を繰り返して、現在は25戸の生産者らで組合を構成し生産に励む。生産者の減少を懸念し、2014年からアサヒメロンの新規就農者を募り、これまでに5名が生産者として独立。今現在、2名の研修生が先輩生産者の手解きを受けつつアサヒメロンを生産している。今回は、安井組合長をはじめとする5名の生産者取材した。

ブランドを受け継ぐ者
安井 貴志 さん



生産者・組合を束ねる立場

18歳でアサヒメロン農家になり約30年。追分アサヒメロン組合の組合長になるとは思っていなかったです。ただ「信頼されているからこそその声」と信じ、しっかりとその声に応えるため活動しています。

組合長になったのは2019年。追分アサヒメロン組合設立50周年の節目の年に加え、北海道胆振東部地震からの復興を目指す年でもあり「アサヒメロンも生産者も元気だよ」というアピールに奔走。今年には春先からコロナ自粛でイベントが軒

並み中止。作付け面積を増やすも、春先は天候不順で収穫量が減（今は軌道に乗ることができたので一安心）。どんよりムードになりましたが、生産を止める訳には行かず、新しい需要を見つけ、出荷量を確保するなどし、組合員の士気が下がらないように務めました。おかげさまで、各市場や仲買人から「もつとアサヒメロンが欲しい」という嬉しい声もいただいています。

更なる発展を目指して

今は25戸の農家で生産しています。これは組合の立ち上げ時よりも増えています。他

の生産地でもそうそうあることではなく、メロンの産地では安平町が唯一とも言われているんです。とは言え、生産者が決って多い訳ではなく。新規就農は常に考えなくてはならない話。メロン栽培の魅力を伝えるには、まず自分たちがその楽しさを分かっているといかないといけないので、楽しみながらもアサヒメロンの生産に励み、共にアサヒメロンを作っていく仲間が増えていけば良いかと。目標とする生産者数は40戸！

アサヒメロンを安平町の文化として。そして、主要産業の農業のひとつとして頑張っていく予定です。どうぞよろしくお願ひします！